

学級担任の先生方へ

『冬の友』の手引き(平成29年度版)

子供たちへの事前指導のポイント

- ① 『冬の友』を事前に見せる。
- ② 『冬の友』をもとに、冬休みの計画を立てさせる。

保護者への事前指導のポイント

- 冬休み前の学級懇談会(保護者会)や学年・学級通信で
- ① 『冬の友』をガイドブックとして活用することを伝える。
 - ② 『冬の友』の中身とともに、「おうちの方へ」にも目を通してもらう。
 - ③ 『冬の友』の計画づくりに参加していただき、体験の重要性を伝える。
 - ④ 冬の友の手引き「冬の友って・・・？」を活用してもらう。

子供たちへの事後指導のポイント

『冬の友』を集めたら

- ① 冬休みの頑張りを認める内容を書く。
(ひとことでもよいので)
- ② 学習ができていなかった部分を確認し、指導の参考に
する。
- ③ なるべく早く子供に返却する。
- ④ 時間があれば冬休みの宝物(体験等)発表会を行う。



◇版画に挑戦させよう

- ・どの学年にもはがき版画のページがあります。冬の体験を版画に生き生きと描いてほしいものです。ぜひ、ひと声かけて挑戦させてください。

◇こんな紹介ができたら

- ・希望購入の学校で、テレビ放送で担当の先生が全校に紹介したり、見本本を子供たちが自由に見ることができるよう展示したりしたところ、『冬の友』を活用する子供が増えました。いろいろ工夫して紹介していただければ幸いです。

『冬の友』を使って、冬休みの指導をしよう

『冬の友』は、戦後、『夏の友』と同じように、冬休みの計画的な生活や冬休みのガイドブックとして、岐阜県の教師の力によって編集・出版されてきました。

『冬の友』は、冬休みに子供たちが豊かな体験をしたり、新たな興味関心を深めたりすることを願って編集しています。そんな歴史を感じながら、じっくり手にとって見てください。『冬の友』を使って、子供たちが充実した冬休みを過ごせるよう、指導してください。

1 『冬の友』が届いたら、教師がまず目を通してください

- ・まず、どんな内容があるのか、じっくり目を通してください。
- ・ぜひ、『冬の友』のよさを感じてください。

全員購入

2 『冬の友』とすてきな出会いをさせてください

- ・じっくり目を通させてください。
- ・『冬の友』の歴史を語ってください。
- ・ガイドブックである意味を話してください。

3 『冬の友』を使って、冬休みの計画づくりをしてください

- ・読むところ、体験するところを決めさせてください。
- ・家で相談して計画づくりを完成させてください。

希望購入

- 『冬の友』(見本)を子供たちにわかりやすく紹介してください。
- 保護者会などで、『冬の友』(見本)を見せて、冬休みの過ごし方を話してください。

- 購入希望をとってください。



表紙で遊ぶ楽しさを感じさせよう

表紙は、日本の遊びなど伝承遊びを伝えたいと願って制作し、家族や友達と楽しく遊ぶコミュニケーションを大切にしています。

1年 ふくわらい 2年 紙ずもう 3年 すごろく
4年 こたわど遊び 5年 ボーリング 6年 将棋・オセロ

- ・「表紙で遊ぼう」のページを見せて、遊ぶ楽しさを感じさせる。
- ・一人だけでなく、家族や友達と一緒に遊ぶ楽しさを教える。



新しい年への願いを持たせよう

「お話の国からおめでとう」は、実際にその作品の作者に書いていただいたものです。

- ・新しい年、自分はどんな一年にしたいか、考えさせる。
- ・どんな一年にしたいか家族で話題にして、カルタや年賀状、宣言文で書くよう話す。

豊かな冬の体験の参考にしよう！

「冬の科学」「作って食べよう」「健康」「遊び」について子供たちが冬に体験できそうな内容を掲載しました。「遊び」は、ケンパ、けん玉、たこなどの昔遊びを紹介しています。

- ・冬休みは、冬ならではの体験ができるとき。じっくり読ませて、体験の意欲づけに活用する。



冬休みの読書生活の参考にしよう！

「読書」コーナーでは、物語だけでなく、知識を広げるいろいろなジャンルの本や新しく出版された本を紹介しています。

- ・いろいろな本を読むための参考にさせる。
- ・「わたしが読んだ本」(1~4年)「わたしの読書記録」(5~6年)を活用する。



郷土岐阜県の自然や文化を確かめよう

県内各地で行われている新年を迎える伝統行事やお正月の行事、冬の気候を生かした生活などを紹介しています。ふるさと岐阜を学ぶことで、郷土に愛着をもつ子に育てたいと願っています。

- ・子供たちが興味をもつように、冬休みの事前指導のときに内容にふれる。
- ・懇談会で保護者へも紹介する。



国語と算数 これだけは理解させよう！

「国語と算数の広場」は、「これだけはどの子にも理解してほしい」という問題を掲載しています。これまでの学習が定着しているか確かめに使ってください。教科書に準拠しています。

- ・まとめてやるのではなく、計画的に取り組ませる。
- ・必ず答え合わせをして、できたかどうか確認する。低学年は家族と、高学年は自分で行うようにする。間違った問題はやり直しさせる。
- ・できなかったところやわからなかったところは教科書や辞典で調べさせる。



環境について考えさせよう！

美しい地球を守るために、トレーやあきかん、ペットボトルのリサイクルや水や森を守るために行われているいろいろな取組みを紹介しています。

- ・じっくり読ませて、自分にできることを考えることができるよう活用する。

